

# 利用者がデザインした道路

金亀建設（株） 技術試験室 玉井 昭典  
同上 乗松 宏年  
北海道工業大学 土木工学科 笠原 篤

## 1. はじめに

道路は、自動車の通行に対応するだけのものではなく、『人にやさしい道づくり』や『個性ある道づくり』など、様々な面からの取り組みが始められ、市民も[みちづくり]や[まちづくり]に関心をもつようになってきている。そのような状況において、舗装分野にも様々な材料が、景観や機能を舗装に付加する意味で用いられてきている。このような付加価値を評価する試みが各方面でなされているが、[足にやさしい舗装]として歩道に弾性舗装（ゴム系）を施工したのを機会に、利用者[高校生]はこういった舗装をどう評価しているかを把握するためにアンケート調査を行い、さらに自由な発想のもとに[あったら良いと思う道]をデザインしてもらった結果について、ここでは述べている。

## 2. アンケート調査

### 2-1 調査方法

ゴムを使用した弾性舗装の特性が生かされている点について注目し、アスファルト舗装、インターロッキングブロック、真砂土を使用したトラックとの比較において、歩いた感じ、走った感じ、など足への感触や、視覚による色やデザインについて調査を行った。調査対象者は、現場に隣接されている高校の生徒であり運動部活者やデザイン系専攻を含む270人である。調査対象舗装の材料と構造は、表-1に示されている。

	弾性舗装	アスファルト舗装	ILB舗装	真砂土ランニングトラック
表層	タイヤ再生ゴム(10mm)	密粒度アスコン(40mm)	ILB(60mm)	真砂土(500mm)
基層	透水性AS混合物(30mm)	-	クッション砂(30mm)	-
路盤	切込砕石(C40,100mm)	切込砕石(C40,100mm)	切込砕石(C40,100mm)	-

表-1 各種舗装の材料と構造

### 2-2 徒歩感覚

弾性舗装についての歩行感覚を他の舗装と比較した結果を図-1に示した。歩いた感覚については、歩きやすく、足にやさしいと答えた人が約9割を占めている。走った感覚についても走り心地は、良いと答えた人が約8割で、トラックとの比較においても約6割の人が良いといった評価をしていた。このことより、歩道においては適度なやわらかさを持つ材料や工法が好ましいが、湿潤時のすべり抵抗性を考慮した安全性などの検討も必要であろうと思われる。また、どのような場所に適しているかに関しては、図-2に示しているように、歩道、公園、ジョギングコース、プールサイドの意見がほとんどであった。また、このような歩道が増えると良いと答えた人が約8割であり、利用者が、現状の歩道では満足していないことがわかった。

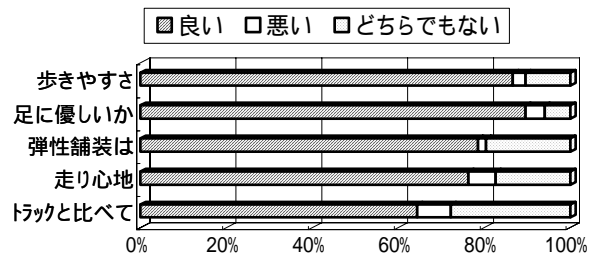


図-1 弾性舗装に対する感覚

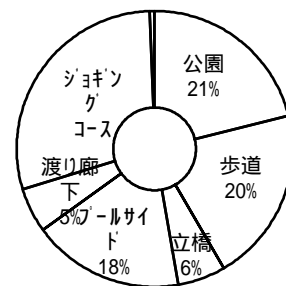


図-2 弾性舗装の適用場所

## 2-3 道路の色彩

道路における色彩についてのアンケート結果は図 - 3 に示されている。人の歩くところについては、緑色と茶色が約 4 割と自然な感覚の色合いが好まれている。車の走るところは、従来の黒といった意見が約 3 割であり、その他、共通した色として見慣れている信号機のイメージがあるようで赤、青、黄色といった意見もあった。今後、道の色彩を考えた場合、周辺環境にマッチした色使いが良いのではないかと思われる。

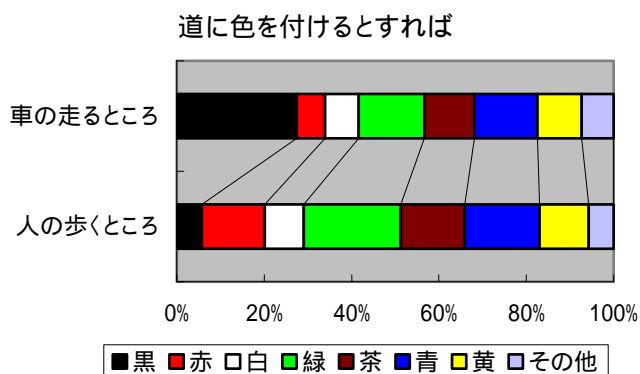


図 - 3 道路の色彩

## 3 . デザイン

デザイン系専攻の高校生に、[ あったら良いと思う道 ]について自由にデザインしてもらった結果、実に様々な道路が提案された。例えば、横断歩道部で歩道と車道をフラットにしたり、高齢者の為に手すりを設けたり、足元の照明を考えたものなど、高齢者や障害者にやさしい道、日本の文化的な建物や自然に調和した道、歩行者と自転車の快適空間を考えた道、良好で安全な沿道環境を考えた道、があり、その中の代表的なものが図 - 4 , 5 である。

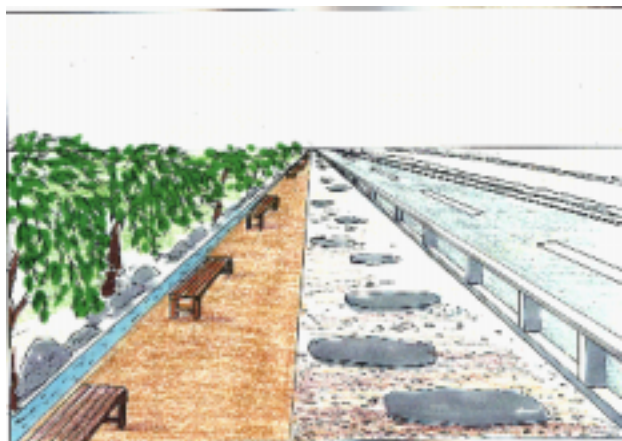


図 - 4 自然な感じの歩道

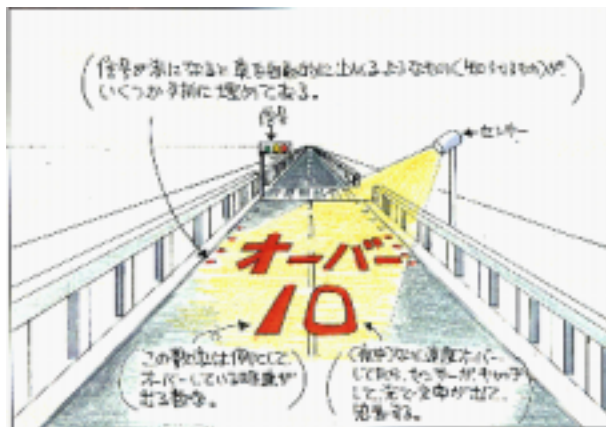


図 - 5 安全を考えた車道

## 4 . あとがき

21 世紀に向けて道路づくりは、「周辺との調和」、「生態系の保全」など課題がたくさんある。アンケート調査（歩行者、自転車利用者）の結果、段差がなく車いすでも自由に安全に通行できる道、自然環境と調和した木や草花がたくさんあり歩いて（歩くと）楽しい道など様々な意見があった。現在、舗装の種類も多種になり又、材料面においても様々なものが使用されている。色々な工法があるなか、適材適所を考え地域産の特色ある材料の使用や、資源の有効利用であるリサイクルなど経済的で効率の良い工法を選択し、車道部はもちろん高齢者や身体障害者の疲労度を軽減するやさしい舗装など利用者のニーズに対応したサービス向上を目的としたみちづくりが必要と考えられる。